

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関に理念を掲示し職員の目に入るように心掛け、それらの理念が実現できるよう努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的にカンファレンスを実施している。	○  月1回のスタッフミーティングを実施し、理念を共有し、常に意識しながら業務に取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪時に目に付きやすい玄関に掲示している。ご入居時等に担当者より理念についての説明をし、理解して頂けるよう努めている。	玄関に掲示してある他、入居の契約の際に説明を行い、施設の理念などをご理解していただけるように説明している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方々との挨拶を率先して行うよう心掛けている。 近所の小学生が定期的に訪問し入居者と一緒に折り紙やあやとりを楽しんでいる。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の神社やお寺、幼稚園などを通じ交流を深めている。 町の行事にも参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>今後、地域の高齢者等の暮らしに役立てるように、運営推進会議等で話し合ったり、地域との連携により、地域に貢献できるような支援を今後検討していきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>今回の自己評価及び外部評価の実施にあたり、今後、職員一同でしっかりと意義を理解し、評価結果を活かして今後の改善に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>今後、権利擁護に関する事業について職員が学ぶ機会等を作っていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書や運営方針を説明し、入居者や家族に理解し納得して頂いた後、契約を結ぶようにしている。 また、契約時にはホーム側の意向、入居者や家族の要望も聞き入れ、お互いに理解、納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書とホーム内に苦情の受付について受付窓口(担当者)を記載している他第三者委員や行政機関、その他苦情受付機関についても連絡先等を記載し、入居者や家族が安心して相談や苦情を申し出ることができるようにしている。	○  現在のところ、苦情等の申し出はないが今後、そのような申し出等があった場合には早急に対応し、今後に生かしていきたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族に行事報告、予定をお便りとし報告している。 また、家族面会時にホームでの様子、電話での報告を実施している。金銭については出納帳に記載し郵送にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には御家族との話し合いを大切にしており、苦情処理委員会を設けている。入居時に説明し、見やすい場所に掲示している。その他、ご意見ボックスを用意し、ご意見等をいただけるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や日常の場面において、職員の意見や提案を引き出すよう問いかけ、必要な提案は活かすよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の急変や職員の体調不良時には連絡網にて各自が理解し合い、助け合いながら柔軟な対応に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初から異動はなく、入居者との馴染みの関係が保たれている。退職者も1名のみで、その際には適切に引き継ぎがなされている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が確実に確保できないのが現状であり、働きながらのトレーニングは先輩から後輩へ、管理者から職員へと進めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内に特別養護老人ホームがある為、連絡等の交流も密にしている。又入居者同士で行き来をしたり、夏祭りなどの行事には参加させていただき、質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の不満は管理者が聞くという決まりのもと、職員間でのトラブルが起きないように努めている。各職員の希望はもちろん、十分な休息が取れるようなシフト組を行っている。	○	管理者が1対1の面談を行っている。また、月1回のスタッフ会議の後には食事会などを開催し親睦を図っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の今後の資格取得希望や提案に対し柔軟に受け入れができるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時にはなるべくご本人様に直接会うようにしている。その際、困っている事や不安などをご本人様からお話していただけるように努めている。その他、希望があれば面会等もしていただき不安解消に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様との面談時にはゆったりとした空間であるリビングや掘りごたつの場所にてお話を伺い普段の生活状況をさりげなく伝えることで家庭的な雰囲気であることを実感して頂き、ご家族様が現在抱えている不安が軽減できる様に話し合いを勧めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際にはホームの機能や対象者について説明するのはもちろん、ご本人の状態やご家族の介護力に応じて、施設サービスや在宅サービス、インフォーマルなサービスについても紹介し、本人や御家族が選択できるよう努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当ケアマネ等から必要な情報を事前に把握するよう努めており、在宅での様子や生活歴を把握し馴染みやすい環境作りを心掛けている。ご家族様と居室についても相談しながら、なるべくご本人様が使用している物を持参していただくようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの経験を生かすことができるような援助や趣味、興味のあることを職員と一緒にやっている。(昔の歌、畑作業、裁縫等)	○ 今までの経験や生活習慣を生かすことができるような機会を今後も増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時には、良いことのみではなく、できなくなってきたことも等も含めてご本人の状態や生活の様子を報告している。面会等も多くきていただけるように努め、居室にて一緒に過ごしたり、リビングで他の入居者様と楽しんで話していただく機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活歴や家族関係の理解に努めている。日常的に連絡を行い、本人と家族の関係が離れないように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望に応じ、馴染みのある場所などに外出したり、馴染みの人が来て頂ける様に面会時等に声かけを行い、関係が途切れないよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に食べて過ごし、皆で会話する時間を多く設けている。個別性に合わせて話をしたり、他の入居者が世話役になるなどの役割もあり、その人の居場所ができるように配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、必要に応じて御家族や他施設職員と連絡を取っている。 また、入居者と共に転所先へ面会に行くこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望を取り入れ、散歩や食事の支度、買い物等に出かけている。</p> <p>また、入居者の口調や仕草、癖等本人の表現方法をスタッフが理解することでゆとりを持った対応をしている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、ご家族からの情報をもとに、これまでの生活歴（職業、趣味、昔の暮らしぶり）を把握し、サービスに役立てている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1日のスケジュールについては細かく定めず、本人の希望等を受け入れるようにしている。その1つ1つを受け入れることにより能力の把握に努めている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当制をとっており、担当者会議やスタッフ会議などでご本人やご家族、職員の意見を取り入れた計画を作成している。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは毎月実施し、計画の見直しは状況の変化に応じて柔軟に行っている。見直しについては入居者、ご家族の要望をきちんと伺い、毎月のスタッフ会議での職員の意見、気づきを大切に活かしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を通して日常の変化や生活の情報を共有している。 毎月のスタッフ会議で話し合いを行い、対応を検討している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同グループ内の特別養護老人ホームやデイサービスがすぐ近くにある為、合同で行事を行い交流を深めている。その他医療法人であるため、入居者の状態や症状などから近くの診療所に受診等の対応がスムーズに行える。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の幼稚園や小学校の行事に進んで参加している。また、園児や、小学生の訪問もある。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、できるだけ柔軟に対応できるよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会等で、定期的に話し合いはしているが、権利擁護等については詳しい話し合いを行っていない。	○	地域包括支援センターとの協働によりより良い支援となるよう、具体的に話し合いながら取り組んでいきたい



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後、必要があれば認知症専門医等の受診や相談などを検討し、支援していきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状況や習慣、好み等の情報を詳しく伝えて連携を図る。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の今までの暮らし方、生き方を尊重しながら誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。 個人記録等は施錠のできるロッカーに保管しその取扱いには十分に留意している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を大切に思いを上手く引き出せるような声かけや雰囲気を作るようにしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮した上で、入居者のペースに沿って生活リズムや性格を考慮しながら見守り・支援するように努めている。また、日々の生活が単調にならないように、外食や外出、ドライブ等を行い、少しでも変化のある生活ができるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族から希望があった時に、同グループ施設で依頼している訪問理容を利用している。また、家族の面会時に居室で散髪される入居者もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	卓上でホットプレートを使用した食事や、おやつ作りを実施している。今後も機会を増やしていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>日常の生活の中で、入居者一人ひとりの生活歴や力量を活かし、買物、洗濯物たたみ、料理、テーブル拭き、掃除等、仕事や役割を見出している。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしてもらっておらず、全て金庫で保管しています。買い物などに出掛けた際、支払いなどできるご利用者には、支払いをしていただいている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出掛けて季節感を肌で感じたり、近所のスーパーへ買い物に出かけている。一ヶ月毎の行事予定を作成し、花見や夏祭り、初詣等で、季節に合わせて外出し気分転換が図れるよう支援している。	○	可能な限り散歩に出掛けたり、個々の希望に沿った個別の外出を継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に食事に出かけたり、お盆やお彼岸の際にはお墓参りなど自由に外出していただいている。	○	今後もしもご入居者の希望を伺って、行ってみたい場所や宿泊施設などにもご家族様のご協力をいただきながら外出をしていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、本人自ら連絡を取りたい場合、いつでも電話ができるように対応している。手紙については、改めて手紙を書くことはないが、年末に年賀状を書いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者は居室へ案内し、ゆっくりくつろいで過ごして頂けるよう配慮している。また、可能な入居者には自らお茶やお茶菓子等を運んでもらい、おもてなしをして頂いている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をせずに済む支援方法を考え、拘束のないケアに取り組んでいる。	○	拘束が入居者の身体的、精神的な障害の拡大要因となることを正しく認識し、拘束のない介護に取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救急救命士の講習等を受講し、知識と技術の向上に取り組む、急変や事故発生時に落ち着いて適切な対応ができるよう努めていきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	今後消防計画書の作成及び避難訓練についても随時実施していき、地域の方達との協力も得られるように働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の状態変化を見逃さず、家族に報告を行っている。その中で、これから考えられるリスク、できていること、できなくなったこと等も伝えるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝食後にバタチェックを行っている。個人記録や申し送りにより職員同士が情報を共有し状況に応じて速やかに家族へ連絡している。また、看護師へ報告し助言を頂いている。		
74 ○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬入れに処方箋を保管しており、いつでも薬効や副作用等が把握できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の献立に中にはもちろん、10時のお茶の時間には牛乳や野菜ジュース、飲むヨーグルト等を取り入れ、便秘を予防できるように努めている。またお腹のマッサージやなるべく体を動かして頂けるように支援している。		
76 ○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。個別の状態により、その都度の対応をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立表を作成し、入居者の好むメニューを考慮しながら美味しい食事作りを心掛けている。栄養バランスは同グループ内の管理栄養士にチェックしてもらっている。食事量や水分量は毎日記録し、個々の健康状態の把握に努めている、。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに沿った対応を行っている。インフルエンザの予防注射は入居者、職員全員が実施している。手洗い、嗽を徹底する他、居室の消毒や使い捨て手袋を使用し感染予防している。トイレは液体石鹸とペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日ふきんやまな板などの洗浄・消毒を行ない、衛生管理に努めている。食材についても週2回の買い物を実施し、買物日までには材料を使いきるように努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーになっており、椅子なども用意しており、安全に配慮している。	○	四季折々の花を植え、親しみやすい環境づくりをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶の間には、畳と掘りごたつがあり、家庭的な雰囲気となっている。キッチンとリビングは対面式となっており、お互いの様子をうかがい知ることができるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースでは、洗濯物たたみをしながら談話されたり、昼寝をされたりと個々が思い思いに過ごされている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>自由に慣れ親しんだ物を持参してもらい、自分自 身で居心地の良い空間を作っている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>日中、こまめに窓を開けて換気を行っている。壁 に温湿計を設置し、入居者が快適に過 ごせるよ うに室温調整を行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>門から玄関までは緩やかなスロープとなっ ている。室内は玄関を含めて段差を解消して あり全てフラットな状態である。玄関先 には椅子を設置し、靴の履き替えや上着 の着脱が安全に行えるよ うになっている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している</p>	<p>その人自身が出来る事を焦らず自分の ペースでゆっくりと行えるよ う支援している。わかる力、 考える力を大切に、できる 限り見守りを行い、 すぐには介助を行っていない。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている</p>	<p>玄関周囲、ベランダにはプランターを 置き、数種類の花を育てている。隣接 する畑では、じゃが芋やピーマン 等の野菜を作っている。建物西側 の庭に椅子とテーブルを設置し、 いつでも日光浴や食事を摂る ことができる。</p>	○	<p>四季折々の花を鑑賞できるように 努めていきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・運営が医療法人であり、病院がすぐ近くにある為、医療機関との連携も取りやすく、24時間訪問看護師とは連絡もとれるようになっていきます。その為、日々の健康管理には万全を期しています。
- ・入居者個々の得意とするものを活かして役割作りを作る事で生活意欲の向上につなげられるように支援しています。
- ・現在のスタッフが20代と若々しく「祖父母と孫」のような関係で毎日元気な声と明るい笑顔が絶えず、若い力を活かした考えと行動を元に支援をしています。その為、外出の機会も多く取り入れたり、同グループ内の施設や町の行事などにも進んで参加しています。
- ・家庭的な雰囲気も大切に、「ゆったりと楽しく、安心して」生活のできる家を目指しています。その為環境にも注意し、常に清潔を心がけ、必ず朝・夕2回の掃除等も行っています。もうすぐオープンして1年目を向かえる中で、今後も常に入居者様を1番に、中心に考え、入居者様やご家族様に安心して頂けるようにご意見もどんどん受け入れていきたいと思っております。